

# April Greiman

2211113 福島葵

01

# April Greiman

(エイプリル・グレイマン)



1948年、ニューヨーク州生まれ  
トランスメディア・アーティスト、デザイナー、教育者  
ロサンゼルス（スタジオ「Made in Space」）

カンザスシティ・アート・インスティテュート  
卒業  
スイス・バーゼル造形学校でスイス・モダンデザインを学ぶ  
1970年代後半、ロサンゼルスに移住し活動開始

# 02

## デザインスタイルの特徴

### スイス・モダニズムの 影響

学生時代にスイス・バーゼル造形学校で学び、グリッド、整列、タイポグラフィの精密性を吸収。  
ただしその後は、あえてこの「厳格さ」から脱却。

### アメリカ西海岸の自由な 感性

ロサンゼルスに移ってからは、より自由で感覚的なスタイルへ。  
カラフルでダイナミック、レイアウトに「揺らぎ」や「動き」を持たせた表現が特徴。

### ニューウェーブ（New Wave）デザイン

1970～80年代に台頭したグラフィックの新潮流。グリッドを崩し、斜体・階調・重なり・写真と文字の融合を積極的に使う。

Jayme Odgersとの共同作業で、アメリカ版ニューウェーブの第一人者に。

### 視覚ではなく「体験」を デザイン

Greimanは「平面グラフィック」にとどまらず、空間・時間・インタラクションを重視。  
「グラフィックデザインとは、静的なアートではなく動的な体験である」と捉える。

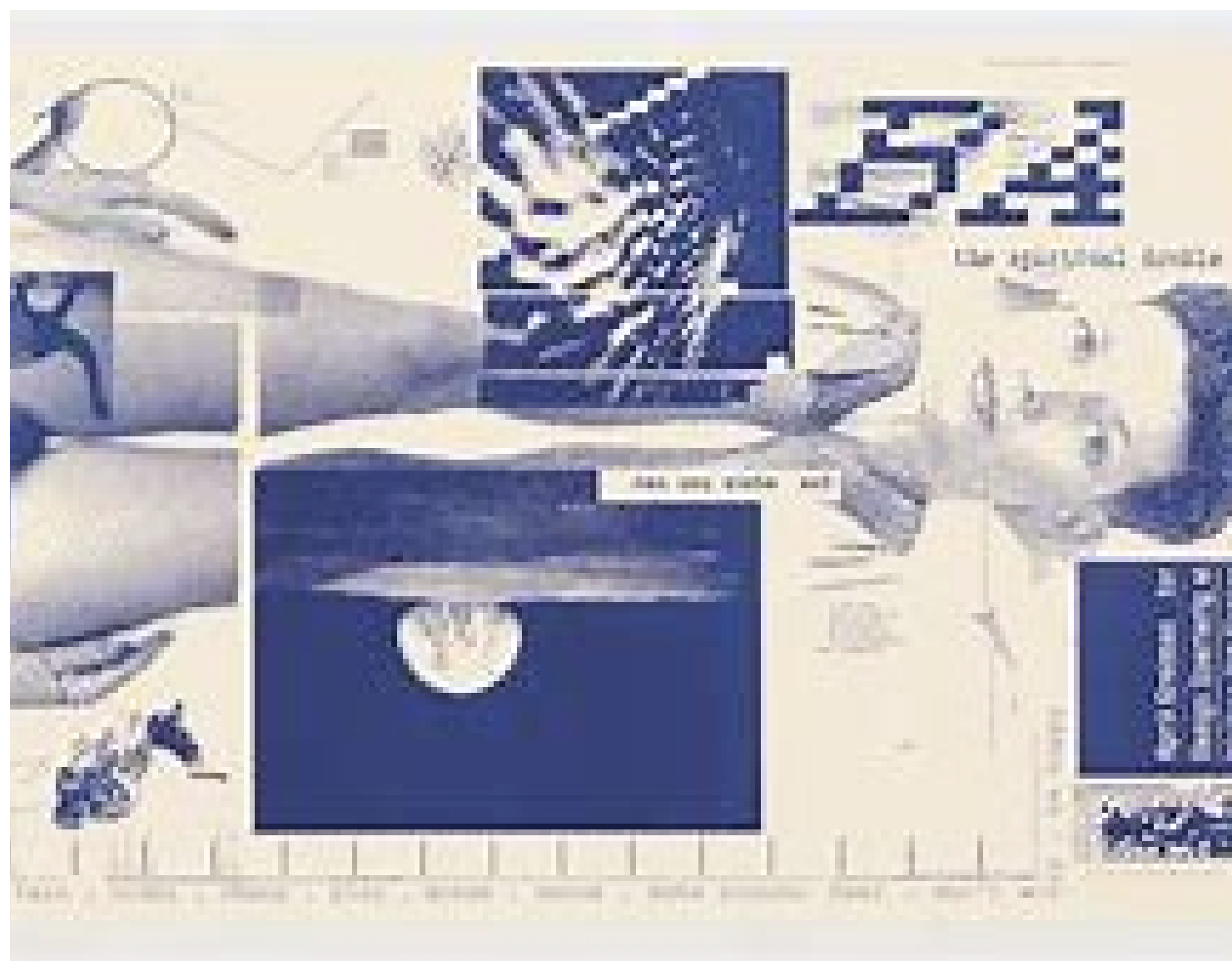
# 03

## デジタル技術との関わり

- 1984年にMacintoshを導入し、デジタルデザインにいち早く挑戦  
グラフィックデザインにおけるピクセル、レイヤー、スキャン、デジタルフォントの可能性を見抜く。
- 「デジタルは美しくない」という偏見を打破。あえて「粗さ」や「ノイズ」を新しい美しさとして提示。
- デジタル×身体性×実験的レイアウト

# 04

## 『Design Quarterly #133』 (1986年)

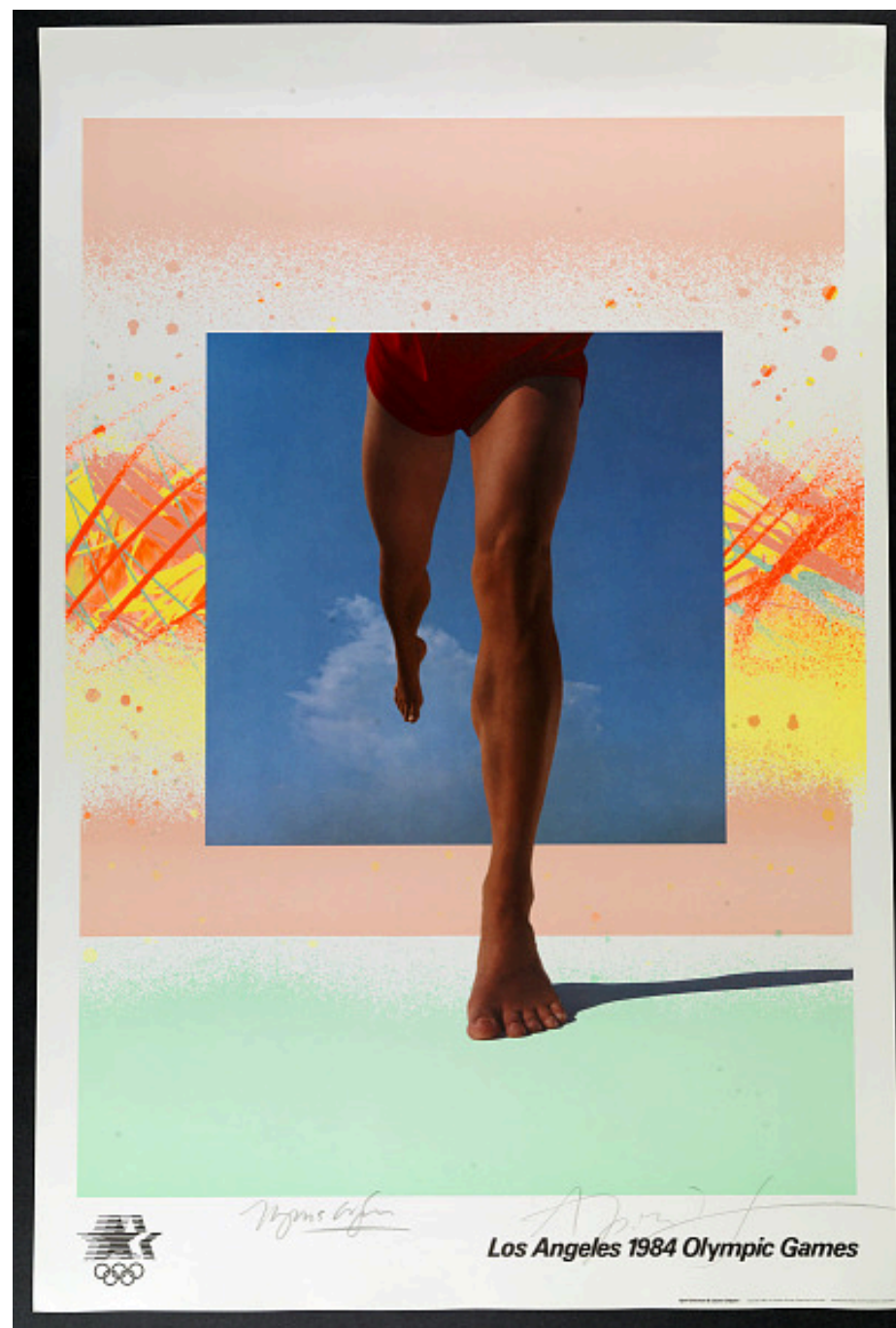


自身のヌードとデジタル画像・文字を重ねた大  
胆な構成

折りたたみ式ポスターとして発表

デジタルと人間の融合を象徴する作品

# 05 ロサンゼルスオリンピック公式ポスター（1984年）



Jayme Odgersと共作

カリフォルニア・スタイルの大胆な色彩と構図

アメリカのニューウェーブ・デザインの象徴



# 06

## 女性参政権75周年記念切手(1995)



アメリカ郵便公社より依頼

歴史的意義とビジュアルデザインを融合した作品

使用された写真：

- 1913年、ウッドロウ・ウィルソン大統領の就任式前に行われた女性たちの行進
- 1976年、イリノイ州スプリングフィールドでの平等権修正条項（ERA）支持者の行進
- 「Equality（平等）」「Freedom（自由）」「Progress（進歩）」といった言葉が配置され、メッセージ性を強調している。

# 教育と社会的影響

07

カリフォルニア芸術大学（CalArts）のグラフィックデザイン部門でディレクターを務める。

表現の媒体を限定せず、より広い視野でビジュアルを捉えるため、学科名を「グラフィックデザイン」から「ヴィジュアルコミュニケーション」へ改名。

女性デザイナーのロールモデルとしても高い評価

- デザイン界では当時少なかった女性リーダーの存在として活躍。
- 女性が表現者として自己の身体や感性を使うことへの意義を積極的に発信。



# 現在の活動と意義

08

「Made in Space」にて建築、AR、公共空間デザインなどを展開

デザインの境界を超える先駆者として活動中

“探求”と“実験”を重視する姿勢は今なお健在

*Thank You!*